

はつらつ体操 元気に開催中!

再スタートから3か月…けっこう盛り上がってます

3月23日から新型コロナ感染防止策でお休みして、7月20日から再開した地域の体操教室「はつらつ体操」は、毎回10数名の参加があります。始まる前に手の消毒、検温、もちろんマスク着用で!さあ、始まりです。

1時間のうち最初の40分間は、逗子市の「しおかぜ体操」。残りの20分間は、久木在住の市川順子さん指導の音楽に合わせたコグニサイズ。前半は比較的静かな動きの体操に対して、後半はリズムカルな動きで皆さんこのコラボを楽しんでいるようです。時々手足の振りをまちがえて思わず笑い声も…。それもまた運動の一つだそうです。参加されている方々が何よりもこの体操を大切に思い、なごやかな雰囲気であることが長続きと健康の秘訣でしょう。あなたもこの機会に始めてみませんか。

開催日:月曜日(休みもあるので確認してください、問合せ:中部地域包括支援センター)
時間:午前10時~11時まで 場所:新宿会館2階会議室
会費:200円 持ち物:飲み物、あせふきタオル、上履きなど。



体操教室「はつらつ体操」の様子

会員アンケート フリーアンサーから

④ 環境部関係 披露山のブルーシート除去は?

昨年実施した会員アンケートでいただいたご意見、ご要望の中から、環境関係のご意見のご紹介と、環境部、自治会の考え方と取り組みを、今回から数回に分けてご説明いたします。

披露山東側斜面のブルーシートはなんとかならないの?

新しくオレンジシートも加わったシートの存在が、景観を著しく悪化させていることは全く同感です。このシートは宅地開発した事業者が設置した崖崩壊の応急的な対策です。

新宿自治会では近隣住民の方と共に、本格的な安全対策工事を行うよう2013年以来、市議会、市長、神奈川県知事に何度も要請してきましたが、未だに「シート」に代わる対策工事が行われず放置状態となっているのが実情です。

この状況をなんとか打破すべく、自治会は昨秋の台風以降、現市長に直接相談。この8月に改めて市長に面談、これまでの詳細な経緯報告書を提出。住民の安全が担保される「土留め」工事を行うよう「事業者、県土木、市長」による三者会談の早急な開催を求めています。



不安で痛々しいビニールシート

ごみ集積場の用地は市の責任で確保できないのか?

ごみステーションの設置場所確保の問題は、どこでも難題ですね。逗子市に確認しましたが、現状では、原則として市が用地を確保し提供することはないものをご理解ください。例外として市道の一部などを利用している例もあります。まずはステーションごとに、利用されるみなさんでよく協議し、廃棄物減量等推進員や市の環境クリーンセンターと相談してふさわしい場所、方法を決めていただくことをおすすめします。

理事会から

◆土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン) 調査結果公表

9月19日開催の理事会に、県横須賀土木事務所急傾斜地担当課長らが来場。新宿3~5丁目の一部で行われていた基礎調査結果がまとめられ、調査結果は説明会を開催し広く市民に公表する予定だったがコロナウイルスの関係から説明会開催を中止。県の広報紙、HPを通じて10月末以降公表する。該当地権者には個別郵送で通知し、関係自治会には公表後に回覧資料を届けるのでご理解をいただきたいとの説明がありました。この後の市長の意見聴取は予定通り行われるそうです。

- ◆10月4日、理事会を開催。自治会防災デーの企画、新宿滞水池上部利用計画変更案などを検討しました。
- ◆10月7日、逗子開成中学校2年生の防災フィールドワークが実施され、自治会役員なども応援参加しました。
- ◆次回理事会は11月21日(土)午前9時30分から新宿会館で開催予定。会員であれば傍聴していただけます。また新しい情報は新宿自治会のフェイスブック <https://www.facebook.com/zushisj/> をご覧ください。

新宿まちかどニュース



2020年(令和2年)11月1日発行 vol.41
逗子市新宿自治会広報紙 編集/総務広報部 発行責任者/会長 福井八州雄
ツワブキ <https://www.facebook.com/zushisj/> e-mail:zushi.sj@gmail.com

11月号
2020

目標の場所を目指せ! 自治会2020防災デーは避難訓練

11月23日(祝日)午前9時 津波発生を想定

今年の新宿自治会の防災デーは、11月23日、5か所の避難目標地点から自分で選んでそこへ向かう津波避難訓練と、新宿会館で津波防災についての展示を行います。これは新型コロナ感染予防に配慮、多くの人々が集中しないように工夫した企画です。なお、荒天の場合は避難訓練を中止。新宿会館の展示(午前中)のみ行います。

津波避難訓練は、午前9時に津波を伴う大地震が発生と想定。下図の5か所の一時避難場所から、それぞれいちばんふさわしいと思われる場所を、参加者自身が選んで、その場所へ避難するというものです。どこへ避難したらよいか、昨年末会員の皆さんに配布した「新宿地区津波避難マップ」なども参考に、ご家族で予め相談し決めておきましょう。みなさんおそろいで避難してください。

当日は午前9時30分~10時30分の間に、自ら決めた避難場所に集合(避難)です。詳しくは本紙と同時に配布した「新宿自治会防災デー」のチラシに。当日はそのチラシを持参、裏面に参加者アンケートあり。到着した場所でスタッフが出迎え、飲料水の配布もあります。

地図のA~Eの中から、あなたが選んで、高台や津波避難ビルに避難してください

【今回の避難目標地点】

- ① ファミール逗子前
- ② NTT逗子ビル屋上
- ③ 逗子開成学園正面入口ウッドデッキ付近
- ④ 披露山登り口 I (東急ドエル前広場)
- ⑤ 披露山登り口 II (4丁目加藤邸空き地)



津波防災に役立つ展示 午前中新宿会館

また、当日午前中新宿会館では、津波避難に関する展示を行います。鎌倉市制作の津波シミュレーション動画など上映予定です。そのほか津波被害の様子を伝える写真パネル、津波防災に役立つ各種パネルなどを展示する予定です、現在準備を進めています。

常時入場者数を制限しますので、密着を避けてゆっくりご覧いただけます。

この防災デーの事業は、市防災安全課などの協力を得て新宿自治会が主催するものです。なお11月5日は「津波防災の日」です。例年この時期に市内いっせいに開催される市提唱の「津波避難訓練」は今年はありません。この津波避難訓練に参加をおすすめします。

あなたの津波避難場所はどこですか?



1923年 関東大震災のとき、新宿はどんな様子だったの？

【特 | 別 | 企 | 画 |】 逗子と新宿のやさしい歴史のお話—その③

構成：新宿まちかどニュース編集部

この国で自然災害史上最大の犠牲者を記録したのは、今から約100年前の1923年（大正12年）9月1日正午前に発生した関東大震災です。政府の提唱する「防災の日」は、この大震災に由来しています。

マグニチュード7.9、震源地は相模湾。大津波を伴う大地震で、ちょうど昼食の時間に重なったことから火災による被害も拡大。死者・行方不明者は、東京都、神奈川県など南関東を中心に10万5千人に及びました。

そのとき逗子はどんな様子だったのでしょうか。まず逗子の郷土史研究に取り組む手帳の会が調査、編集した「明治大正昭和 年表・逗子の三代史」の記述からご紹介します。

「11時58分大地震おこり 逗子小学校、実科女学校（現逗子高校の前身）、町役場、延命寺、東昌寺、法性寺祖師堂、小坪寺、開成中学校、逗子駅舎等全壊した。富士見橋流出、田越橋・清水橋挫折、地割れ各所に走り、20尺（約6m）の津波が小坪を襲った。」

注：小坪の津波は7～8mの説もあります。新宿浜の津波は3～4mで、東郷橋まで到達したといわれています。

「当時（逗子）町の戸数2176戸うち全壊808戸（1624棟）、半壊1106戸（2066棟）、火災4戸、流出5戸（40戸とも）、床上浸水80戸、床下浸水53戸、漁船流出30、損壊64。人口9938人 うち死者76名中74名が圧死。」

新宿の家屋（主屋）全壊149戸、半壊74戸という別の報告もあります。横須賀線が全線復旧したのは9月30日でした。

一方、当時の町長、小林章司は自らの回顧録「80年の回想」の中で、次のように振り返っています。

「役場、学校を始め住宅の大半が倒壊した。橋梁は落ち道路は裂け津波が来て家も流れた。阿鼻叫喚此の世の終わりを告げる思いであった。夜は燈火のない暗黒が続いた。交通途絶の為食糧を得る事が第一の心配であった。食糧の調達については、幸い逗子停車場構内に葉山角田商店の白米300俵があり、これを法規をたてにいちやく差押え、（その後横須賀鎮守府などの協力も得られ）とりあえず急場をしのぐことに成功している。」また、夜間の照明用に保土ヶ谷で蠟燭を製造していた町長の知人から、相当数の蠟燭を買い取り、各字の戸数により配分したと記しています。

家屋倒壊と津波 貴重な体験の記録が残されていました

●福原 信和／後の資生堂社長 資生堂創始者 有信の孫。新宿1丁目現サザン逗子辺りに一家の別荘があった。私は、町に出ていて震災にあい、田越橋を渡って川ぞいに道を下っていくと、「津波だ！」という声で、慌てて徳川別荘（旧市郷土資料館）辺の山に登った。するとみるみる水が上がってきて、もやっていた舟が富士見橋にぶつかった途端、橋が流されていった。爺やが下に下りて、下の魚屋の若い衆に舟で家まで行ってもらって、信和が無事なことを家に伝えた。福原邸はやや高く水はあがらなかったが、養神亭は水が上がって、泊り客の若夫婦が庭の松の木に上がって、「一緒に死のう」と身体を紐でくくっていたという。（談）手帳の会「関東大震災と逗子」より

●吉田 勝義／後のホテル養神亭代表 元逗子市議会議員、議長。養神亭は1889年に新宿1丁目に開業。養神亭の人達は火災と津波を恐れて桜山へ避難した。桜山で数日を過ごし地震がおさまったので戻ってみると、建物は倒壊していたが、消失は免れていた。当時養神亭は、中央部に帳場があり田越川寄りに調理場があって大きないろりにカンカン炭火をおこしていた。当然そこから発火する筈だが、建物がつぶされた時薬缶がつぶされ火を消したらしく火難をのがれた。「ホテル養神亭むかしと今」より



大津波が逗子海岸に到達 逃げる人の姿も／逗子フォト



現在の横浜銀行から銀座通り辺りの惨状（県警資料）

●石渡 いち／当時の甘酒屋店主 店は桜山8丁目富士見橋近くに今もある。

震災の時は、一時ずっと海水がひいて、富士見橋（津波で流された）の所から浪子不動まで一直線に干潟になった。それから70～80センチの高さに津波がどっと来た。店に置いてあった一斗がめの焼酎・みりんなどが皆流され、土管から水柱がたった。桜山下分山際は地盤が固くてつぶれなかったが、逗子新宿は軒なみつぶれた。 逗子教育研究会調査部編「としよりのはなし2」より

●里見 淳／小説家 1921年から数年間、東郷橋近く新宿1丁目、立派な門がある広い別荘を借りて「白酔亭」と命名し住んでいた。兄・有島武郎、泉鏡花夫妻、谷崎潤一郎なども訪れた。近くに大震災直後、憲兵隊司令部で殺害された大杉栄が住んでいて、それらの交流は「春めいた出来事」「白酔亭漫記」などにある。

（当日、里見は東京の仕事部屋にいた）留守宅の、家内はじめ四人の子女、女中たち、一同そろって無事で、神社の境内に蚊帳を吊って、野宿しているとの知らせがあり、とり敢えず、母と弟夫婦の棲む麻布の家に寝泊まりしてみた私は、5日早朝、岐路の用意に屈竟な俵夫ふたりに空車を挽かせて（地割れのため役に立たず、戸塚への農家に預ける）逗子に向かひました。

〔途中で虐殺の犠牲者と思われる死体の山も見たとの記述もあります。〕手帳の会「関東大震災と逗子」より



白酔亭の門（撮影1980年当時は田辺邸）三浦澄子「逗子道の辺百史話」より

この大震災で戒厳令が発令、逗子でも自警団が組織されました。突然の災害には、やはり正確な情報入手と冷静な判断、日ごろからの備えが大切ですね。11月5日は「津波防災の日」です。

新宿滞水池上 市の「変更案」に市民から見直しプロセス提示

9月の地元説明会を受け ワークショップ立ち上がる

新宿滞水池上部の利用計画は、市の働きかけにより近隣住民、市の関係者による話し合い、専門家も加わった3回のワークショップ（WS）を開催、パブリックコメントも実施し、2013年には市の基本計画として確定していました。内容は、滞水池の維持管理に必要なエリアを確保した上で、シンボルツリー、藤棚、ベンチ、広い芝生広場を有するミニパーク的機能をもつ公共広場にするというものでした。ところがその計画を変更する案がこのほど市から示され、去る9月26日、市役所会議室で開かれた地元説明会には、新宿の住民など28人が参加。滞水池の適正な維持管理エリアの確保と市の最近の財政状況を理由に、**7台分の時間貸し駐車場と、20台分のシェアサイクルの駐輪場を設置しようとする新たな基本計画案**について説明がありました。来年夏には供用開始というスケジュールです。

当初の計画にあったポケットパーク的要素はどこにも見当たらず、滞水池管理区域と、駐車場、駐輪場など残りのスペースとは、場内に柵を設けて2つのエリアに区分するというものです。市の説明では、駐車場の営業権と引き換えに、今回の計画変更に伴う施工工事のすべてを時間貸し事業者が実施、維持費も事業者負担とすることで、新たな財源の確保につながるというものでした。

なお、10月11日開催予定の市民説明会は台風により延期、10月15日現在、開催日程は未定です。

地元主体のワークショップで意見交換開始 次回は11月8日開催

これに対し、説明会に参加した市民からは「WSまで開いて確定した計画を変更するのであれば、もう一度同じような市民参加による合意プロセスが必要ではないか」「新宿の平地には公園がひとつもない」「財源確保ばかりが優先し、**逗子ならではの景観保全や市民のための憩いの場など、まちづくりの長期的視点が欠けている**」「騒音や風紀も心配。夜間も利用できる時間貸し駐車場開設は困る」などの意見が出され、地元主体での意見交換の場の設置が提案されました。

これを受け、去る10月11日に滞水池現地と黒門カルチャーくらぶにて、周辺住民と新宿自治会、近隣マンション管理組合、市担当課などが参加して、キックオフミーティングが開催されました。ここでは、市の変更案に対する質問をはじめ、この空間に対する期待のほか、近隣住民としての不安、さらに過去の経緯など、多角的な意見が出されました。市からは、このワークショップが立ち上がったため、当初予定のパブリックコメントなどのスケジュールは見直すとの説明がありました。**次回ワークショップ開催は、11月8日（日）午後2時から市役所5階会議室**の予定です。どなたでも参加いただけます。多くの皆様のご参加をお待ちいたします。また、ぜひご意見をお聞かせください。ご意見は➡新宿自治会 e-mail: zushi.sj@gmail.com または Facebook グループ「新宿たいすいち」まで。